



2014年5月12日

各位

会社名 株式会社 やまびこ  
代表者名 代表取締役社長執行役員 永尾 慶昭  
(コード番号 6250 東証第一部)  
問合せ先 管理本部 総務部長 安田 一範  
(TEL 0428-32-6111)

### 新中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2015年3月期から2017年3月期までの3ヶ年における新中期経営計画を策定いたしましたので、その概要について下記のとおりお知らせします。

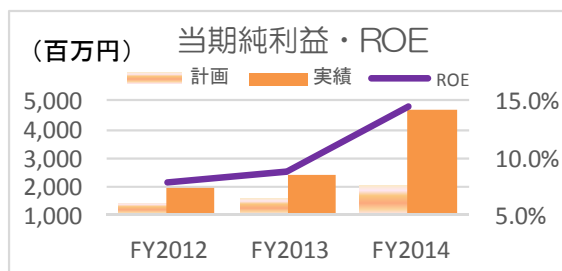
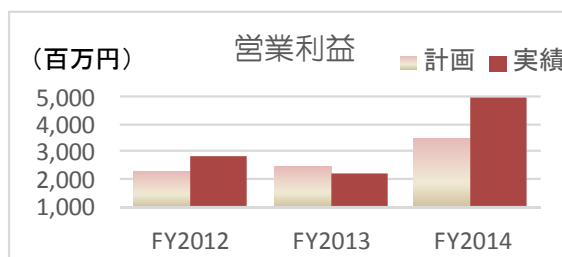
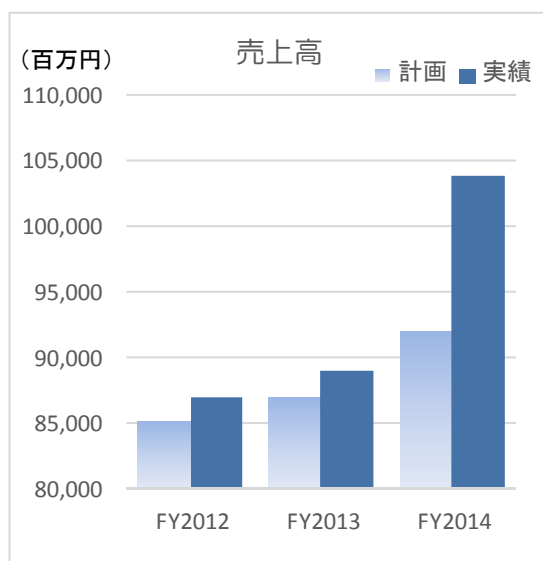
記

#### 1. 前中期経営計画の総括

当社グループは、前中期経営計画期間（2012年3月期～2014年3月期）において、「環境の変化に対応しながら統合シナジーの最大化を完結させて着実な成長を果たすと同時に次なる成長フェーズに向けた体制整備期間」と位置付け、強い利益体質を構築し、国際競争力を高めて、更なる事業の拡大と企業価値の向上に向けて中長期的な視点に立った取り組みを展開してまいりました。

計画の最終年度である2014年3月期は、欧州市場は引き続き低迷したものの、円安の進行や主力の米国、国内市場の緩やかな回復基調が続くなど、経営環境が総じて好転する中、経営統合シナジーの最大化はもとより、為替変動リスク低減策を始め、中期経営計画で掲げた諸課題に全グループを挙げて取り組んだ結果、次の通り計画を大きく上回る売上高、利益となりました。

また、次なる成長フェーズに向けて、農業用管理機械事業と一般産業用機械事業の新たな海外展開への布石、北米市場での新規販売ルートの開拓、新基幹ERPシステムの導入などにも取り組みました。



(百万円)

	2012年3月期		2013年3月期		2014年3月期	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
売上高	85,000	86,905	87,000	89,045	92,000	103,848
営業利益	2,300	2,809	2,400	2,212	3,500	5,020
当期純利益	1,400	1,972	1,600	2,423	2,000	4,656
ROE (%)	2011年3月期実績 5.3% ⇒ 2014年3月期目標 8.0%以上					
	—	7.9	—	8.7	—	14.5

&lt;通期輸出為替レート/実績&gt;

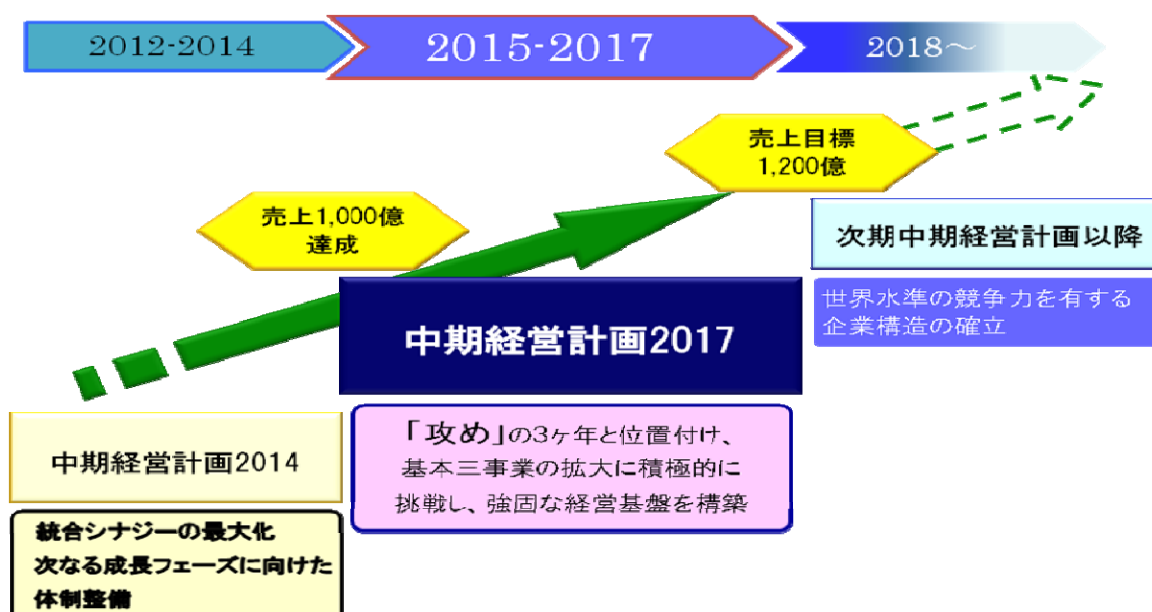
(円)

USD (\$)	80	79	80	83	80	100
EUR (€)	115	111	110	109	110	134

## 2. 新中期経営計画策定にあたっての考え方

新中期経営計画期間中の当社グループを取り巻く経営環境として、為替相場は現状で推移し主力市場である日・米・欧の経済は復調傾向が持続するものと想定します。

前中期経営計画では、当初計画を上回る実績にて終了しましたが、収益力の伴った更なる事業拡大を推進し利益体質強化を図るため、新中期経営計画期間を“攻め”の期間と位置づけ、「拡販に資するマーケティング・開発投資、収益性改善に資する設備投資を積極的に行い、主力事業分野である小型屋外作業機械事業の更なる成長および農業用管理機械事業と一般産業用機械事業の着実な拡大に取り組んでまいります。



## 3. 重点施策

### (1) 販売力の強化

① 拡大が期待される海外市場において、小型屋外作業機械分野では、米・欧の主力市場への積極的なマーケティング投資、新規販売チャネル開拓などを通して一層のブランド力向上およびシェア拡大を図ります。また、農業用管理機械分野ではタイをはじめとした東南アジア市場の開拓推進、一般産業用機械分野では最有力市場である米国市場への再参入など、海外市場への展開をより拡充、加速します。

②国内市場においては、農政動向も睨みながら効果的な新製品導入やOEM取引の拡大、また、増大が期待される公共事業関連需要の確実な捕捉などにより、いずれの事業分野においても売上伸長を図るとともにシェア向上を目指します。

③保有する技術を活用し小型屋外作業機械をはじめ大型防除機も含めたバッテリー製品など、中長期視点で新たに業績に貢献する製品群を開拓、育成します。

(2) 製品競争力の強化

①新製品の開発から市場投入までのスピードを高めるとともに、電子制御技術などを活用した付加価値の高い新製品を創出、育成します。

②小型屋外作業機械用エンジンのプラットフォーム共通化を促進し、競争力向上とコスト削減を図ります。

(3) 製品品質向上と生産効率の改善

①早期に全生産拠点における品質基準の統一化を図るなど、一層の製品品質向上を追求します。

②為替環境に応じた柔軟な生産体制の構築や積極的な製造ラインの自動化設備導入などにより、一層の生産効率向上およびコスト低減を追求します。

(4) 経営基盤の強化

①新基幹システム構築とその早期安定化を図り、一層の業務効率向上を追求します。

②社会や環境などに配慮した活動に積極的に取り組むとともに内部統制・リスク管理体制の強化を図って社会的責任を果たしてまいります。

4. 業績計画と目標指標

(百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高	108,000	114,000	120,000
営業利益	6,000	7,000	8,000
当期純利益	4,600	5,300	5,500
＜前提となる通期の輸出為替レート＞ (円)			
USD ( \$ )	100	100	100
EUR ( £ )	140	140	140

● チャレンジ目標：2017年3月期 営業利益率7%以上

(注) 本計画は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化によっては、実際の業績が変動することがあります。

5. 株主還元についての考え方

当社は、安定的に利益還元を行うことが経営上の重要課題のひとつと考え、剰余金の配当につきましては、安定配当の継続を基本とし、連結業績に応じた利益還元を加味するとともに、経営環境や財務状況、将来の事業展開に備えた内部留保の充実などを総合的に勘案して決定することを方針としております。

なお、新中期経営計画では、「連結業績に応じた利益還元」の目安として連結配当性向25%を継続します。

以上